

人とともに 地域とともに 島根大学

# \*shimadai



[特集1] NEXTA研究棟オープン

## 加速する 金属素材分野 における研究・教育

vol. **49**  
shimadai

2021.7

[特集2] 島根大学のカーボン・ニュートラルへの取り組み



# NEXTA研究棟がオープン 先端金属素材の研究と教育を推進



2018年度に採択された「先端金属素材グローバル拠点の創出—Next Generation TARA Project—」事業では、島根県内企業および国内外の研究機関と協働し、金属系新素材の研究開発を行うほか、先端素材のエキスパートとなる人材の育成を目指しています。この度、この事業の拠点施設となる新研究棟がオープンしました。今回は、この研究施設の特徴と、どのように研究や教育を推進していくのかをご紹介します。

## ”人と技術を融合させる” 研究棟“が始動

このほど完成した次世代たたら協創センター（NEXTA）研究棟は、鉄筋コンクリート3階建てで、延べ床面積約1,845平方メートル。1階

## vol.49 CONTENTS

- 留学生・留学体験紹介 ..... 11
- 島根大学の研究・地域貢献事業紹介
- ①人間科学部 長谷川 千紘 講師 ..... 13
- ②生物資源科学部 吉清 恵介 准教授 ..... 15
- ③エスチュアリー研究センター 南 憲史 助教 ..... 17
- 社会で活躍する卒業生 ..... 19

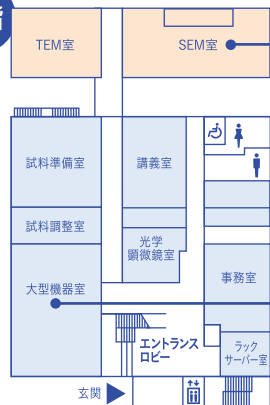
- しまだい便り ..... 21
- しまだい's サークル ..... 24
- 島根大学支援基金より ..... 25
- 読者プレゼント ..... 25

企画・制作  
株式会社メリット  
デザイン  
有限会社node  
タイトルロゴデザイン  
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾



## NEXTA 研究棟の様子

1階

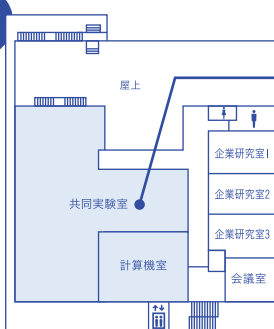


SEM室



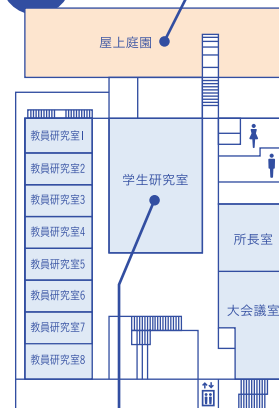
大型機器室

3階

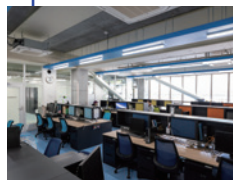


共同実験室

2階



屋上庭園



学生研究室



エントランスロビー

は大型実験機器のフロアとして、国内で数台しかない電気熱機械試験機(ETMT)や、電子線を照射することによって元素や結晶のマップを作ることが出来る走査型電子顕微鏡(SEM)など、最新の研究機器を設置。今後も新たな機器の導入を計画しています。2階には学生や教員の研究室を配置し、学生研究室はガラス壁を多く採用しました。フロア中央部分に交流スペースを設置し、教員や学生、企業の研究者らが活発に議論できるオープンな雰囲気を作り出しています。3階には企業研究室や共同実験室を置き、連携する企業等との研究活動を行う拠点となるよう整備しています。

4月21日にはNEXTA新研究棟のオープニングセレモニーを開催し、丸山達也島根県知事をはじめ関連団体や企業などから約50名の方にご出席いただきました。

金属素材研究に集中・特化した国内有数の研究機関として完成したNEXTA研究棟。金属材料を「視る・測る・設計する・創る」という材料工学の4つの柱が相互に連携するこ

人とともに 地域とともに 島根大学

\*shimadai

広報しまだい  
Shimane University

2021.7 vol.49

【特集1】  
先端金属素材研究の拠点  
NEXTA研究棟オープン ..... 01

【特集2】  
カーボン・ニュートラルの取り組み ..... 05

【特集3】  
島大生の活躍 ..... 07



とにより、企業を持つ研究・開発の課題解決につなげ、産学官が一体となつてイノベーション創出に取り組みオープンイノベーション拠点として、活動を促進させます。

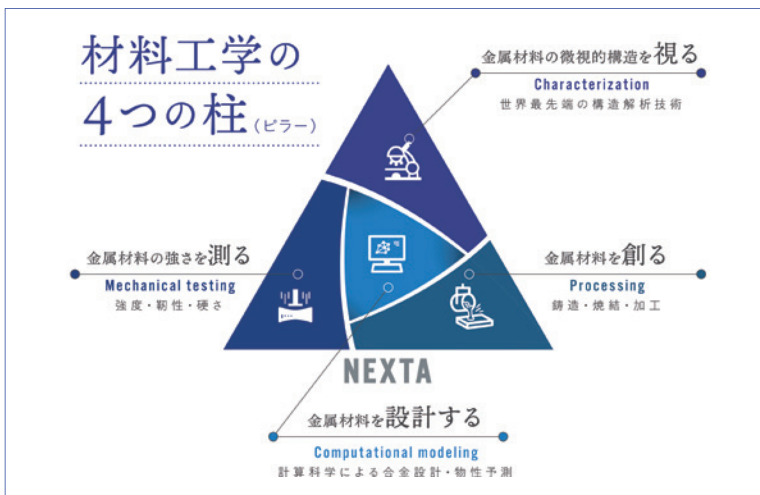
## 金属関連産業を中心に

## 様々な分野に精通した人材を

NEXTA研究棟のオープンにより、地域の金属関連産業のイノ



ベーションを担う人材育成も大きく加速していきます。総合理工学部では、NEXTAと連携して材料分野の人材育成を進めるため、2021年4月に「材料工学特別コース」を設置。この特別コースは、総合理工学部の5つの学科（物理・マテリアル工学科、機械・電気電子工学科、物質化学科、知能情報デザイン学科、数理科学科）を横断する教育コースで、金属工学を中心とした材



料工学の教育を行い、地域の金属関連産業のイノベーションを担う人材の育成を目的としています。

この特別コースの二環として、1年生を対象とした「わくわくマテリアルセミナー」を開催しています。第1回目の4月21日には完成したNEXTA棟の見学会を開催。参加した学生は、オックスフォード大学教授で次世代たたら協創センター所長のロジャー・リード教授の講義風景やビデオメッセージを視聴した後、館内を回り最新機器の説明を受けました。第2回目の5月12日にはチタンの溶解やジェットエンジンの構造など、材料工学の基礎的な講義と実験を行いました。

「材料工学特別コース」の教育プログラムは、将来の金属材料分野を牽引する研究者の育成を目指す「NEXTA特別深化プログラム」と、先端材料開発・製造現場で活躍できる知識と能力の習得を目的とした「マテリアル×多分野プログラム」があり、それぞれのプログラムで学びを深めることができます。



また、学部での専攻分野をさらに追究したい学生のために、大学院博士前期課程では「先端材料工学コース」を、博士後期課程には、金属に特化した「マテリアル創成工学特別プログラム」を設置。教育研究体制に連続性を持たせています。

NEXTA研究棟の最新設備や様々な研究者との交流を通じて、地域の金属関連産業を発展させる革新的な技術開発と人材育成を進め、地域産業が求める高度専門人材の育成を実現します。



VOICE

「わくわくマテリアルセミナー」  
参加学生の声



総合理工学部  
物理・マテリアル工学科  
1年

梶山 修暉さん

研究現場に触れて  
見つかった新たな発見

私は実際の研究に触れてみたくて、このセミナーに参加しました。セミナーでは引張試験という実験を行って実際に金属の強度を調べました。試験終了時は試料が破断するのですが、ものによっては断面が刃物で切ったようにきれいで驚きました。また、データを見ると金属の種類ごとに特性が表れていて、自分の想像以上に強度があるもの、逆でないものがありました。実際の研究で用いる試料を使ったときは、試料表面の変化を見ることができました。今回のセミナーでは身近な金属を用いて実験をしましたが、機会があれば超合金など特殊な金属を用いてみたいです。



総合理工学部  
物理・マテリアル工学科  
1年

工藤 千聖さん

最先端の研究機材を使って  
自身の学びを広げるきっかけ

私は、入学前にNEXTAを知り、金属の性質に興味があったのでわくわくマテリアルセミナーの「材料を壊してみよう」というセミナーに参加しました。そこでは身近な金属を壊すことで応力を測る実験をしました。最先端の研究機材を使い、目の前で行った引張実験から金属の性質や壊れ方を学ぶことができました。延性材料が変形する瞬間のひずみ線図や、金属に亀裂を入れると壊れ方が変わることが印象深かったです。高校ではできない実験がセミナーでは早くからできるので、いろんな金属の性質や合成についてより深く学び、自分自身でも知りたいことを追求するきっかけとしたいです。



総合理工学部  
機械・電気電子工学科  
1年

石川 晶章さん

様々な体験を通して  
材料工学の世界を覗く

親や親戚が金属加工に関わる仕事をしているということもあり、材料工学には元々興味があったため、このセミナーに参加しました。材料工学体験会では、アモルファス金属という様々な特性を持つ金属の加工を体験しました。身近な金属と比較しながら、手に取ってみたり加工してみたりすることによって、その特性を実際に見て肌で感じ取ることができ、私にとって非常に刺激的で貴重な経験になりました。穴をあけるという単純な加工でも、材料や力加減によって、完成度に大きな違いが出ることから、材料工学という学問の奥深さを垣間見ることができたような気がします。



総合理工学部  
物質化学科  
1年

村松 空佳さん

金属の繋がりがもたらす  
恵みで生活を豊かに

チタンは、鉄や銅ほど馴染みのある金属ではありませんが、実は魅力だらけの金属です。チタンは強い・軽い・錆びにくいといった多くのメリットを持ち、宇宙産業など様々な分野で活躍しています。また、組み合わせる金属によって、加工のしやすさなど新たな特性を見出すことが可能です。私はチタンから、金属は他の素材と組み合わせることで、互いの欠点を補うことや互いの良さをより高められることを学びました。今回のセミナーをきっかけに、金属単体の新たな特性の発見、無限にある金属の組み合わせの研究を行い、私たちの生活を豊かにする材料をつくりたいと思いました。



# 大学・地域が一体となって課題に取り組む 脱炭素社会に向けた島根大学の動向

経済産業省、文部科学省、環境省は今年3月、2050年

カーボン・ニュートラルの達成に向け、政府関係者と大学の学長らが意見交換するサミットを開催しました。知見の創出や普及の使命を担う大学に大きな期待が寄せられる中、島根大学の今後の取り組みや姿勢などについて、SDGsや地域連携担当の大谷浩理事に聞きました。

## 温室効果ガスの差し引きゼロを目指す

「カーボン・ニュートラルとは何ですか。」

カーボン・ニュートラルとは、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)やメタンなどの温室効果ガスの排出量から、温室効果ガスの吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにすることです。排出を完全にゼロに抑えることは現

實的に難しいため、排出せざるを得なかった分については、同じ量を吸収したり、除去したりすることで差し引きゼロを目指します。

このカーボン・ニュートラルの前提には、17のゴールから構成される国際目標、持続可能な開発目標(SDGs)の実現があります。たとえば、電気自動車(EV)は走行時にはCO<sub>2</sub>などを出しませんが、製造段階では多くのガスを排出します。また排出量を抑制できたとしても、そのイノベーションが、低賃金の外国人労働者に頼ることしか実現できないのなら、先進国と途上国との格差拡大や貧困の拍車、資源搾取などにつながります。問題を多面的に捉えなければ、本質的な解決にはなりません。

今や気候変動というより気候クライシス(危機)として世界中で実感されていることの影響は、直接的な被害に留まらず、生態系や経済活



大谷浩理事

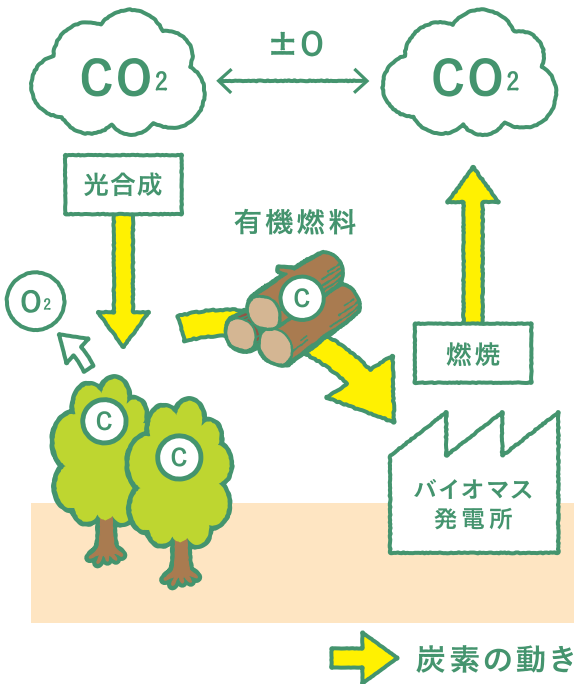
動、保健衛生、福祉など様々な形で長期的に及ぶことが予想されています。脱炭素社会は、SDGsに掲げられた17の目標全てに通じる重要なテーマなのです。

## 「大学の知」を集結・連携し 地域と一体で脱炭素社会へ

「2050年カーボン・ニュートラル実現に向け、大学が、国や自治体、企業、国内外の大学などとの連携強化を通じ、その機能や発信力を高める」カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等「コアリション」が今夏設立されます。

## カーボン・ニュートラルとは？

CO<sub>2</sub>排出と吸収が理論上は  
プラスマイナスゼロ





二酸化炭素からメタノールを合成する共同研究を行う総合理工学部の小侯教授

島根大学も早くから参加の意思を示しました。

現在、120の大学などが参加予定ですが、当初は今の半分以下でした。島根大学は、先進的な取り組みを積極的に学びたい一心で早くから手を挙げました。

菅義偉首相は今春、2030年までの温室効果ガス排出量削減目標を、2013年度比46%減と表明しましたが、これは非常に高いハードルです。本学でも10年以上前から、ペーパーレス化やLED

化などの環境マネジメントシステム（EMS）の取り組みを押し進めており、できることはやりつくしたような状況です。今後は、地元自治体や市民と協力しながら、キャンパス内に限らず、地域全体として排出削減を目指していく必要があります。

大学には、いろいろな立場で研究している先生が数多くおられます。法文学部には貧困問題を調べている先生がいますし、医学部では地域包括ケアの視点で市民の健康福祉を考えている先生がいます。総合理工学部には、CO2を原料とした高効率なメタノール合成反応の確立を目指している先生もいます。先ほどお話したとおり、カーボン・ニュートラル達成とSDGsは密接な関係にあります。貧困、健康福祉、産業と技術革新、エネルギーなどは全てSDGsの17のゴールの一つです。様々な問題を学問的に解析し、解決に向け提言していただけるのは、大学ならではの役割です。

— 島根大学として、今後具体的にどのように活動していきますか。

まずは学内での連携を強めていきます。今年度、SDGs推進プロジェクトが立ち上がりました。各学部で様々な研究を行っている先生にお話を聞くとともに、意識の向上を図り、連携してSDGsを押し進められる仕組みを作っていきます。これまで、個々の先生に任せていた部分を、大学全体として力を入れていくのです。大学は、学問研究の自由が保障されていますが、SDGsが実現できなければ、研究そのものに行えなくなる可能性もあることを理解しなければなりません。

また、学生の意識向上も目指しています。2015年の国連総会でSDGsが採択されて以降、初等中等教育機関では積極的に教えられてきましたが、大学生の中にはあまりよく知らない人も少なくないようです。学内構成員にSDGsに関する意識調査を実施し、その結果を踏まえた上で、取り組み方法を考えていきます。

島根県には、豊かな自然があるにも関わらず、高齢化や少子化が

原因で、それらの維持が困難になりつつあります。多くの課題を抱えているからこそ、大学の知を集集し、地域と一体となって課題解決に向けて取り組む必要性があるのです。大学が中心となって、地域や自治体と一緒に取り組んでいかない限り、SDGsもカーボン・ニュートラルも実現できません。

今夏設立予定のコアリションは、総会で大学としての戦略をとりまとめた上で、ミッション別のワーキンググループにおいて、各大学の取り組みを推進し、活動を国内外に発信する予定です。島根大学は、全体を見渡せる総会のメンバーに入り、戦略策定に力を注ぐ考えです。







「日本創生のための将来世代応援知事同盟」が開催したサミットの様子。4つのテーマで5つのグループ（暮らし・仕事・学生生活・東京一極集中①②）に分かれてオンラインで行われた。



教育学部 学校教育課程 2年  
吉岡彩那さん

## 地域ごとの魅力がある！ 大学生と知事が意見交換



### 吉岡さんのプレゼン

＼ 地方に住みたい！（地方に住むことの良さ） ／

- 1 人と人のつながりが深い
- 2 地価が安い
- 3 鮮度の良い食材に出会える



◀吉岡さんのプレゼン動画はコチラ

他との対比ではなく  
個々の良さを捉える

4月13日（火）に行われた「知事同盟サミット in ひろしま」に参加し、18県の知事と大学生による公開ディスカッションで、「暮らし」について発表しました。昨年受けた講義の中で、都会に比べて不便なことが、実はアイディア次第でプラスに転じることに気づきました。これをもとに、「地方には何もない＝不便」だからこそ「面白い」という軸でプレゼンしました。意見交換で印象に残ったことは、「自分たちには良さが分からなくても、よそから見るととても魅力的なことがあるかもしれない」ということです。自分の住む県について聞かれると「何もない」と言ってしまうがちですが、町の良さを何かと比べることなく、真正面から捉えて良いのだと気づかされました。サミットを通じて、より多くの人に自分の住む地域がどんなに素敵なおところかを知ってもらいたい、誇りに思ってもらいたいと強く感じました。私は教育学部なので、教育から地域への理解や地域に関する知識を高めるようなアプローチをしていけたらと考えています。

日頃から専門的な研究や地域活動等で活躍する学生たち。今回は、コロナ禍においても、大学での学びを活かし、それぞれ異なるフィールドで精力的に活動する学生と団体を紹介します。



昨年11月28日に開催したSDHイベントの集合写真。コロナ対策を行ったうえで、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。



### ／ 様々な分科会に発展！ ／

SiPSはイベントや交流会だけでなく、メンバーの興味に合わせて様々な分科会をつくり、領域横断的に学べる仕組み作りをチャレンジしています。それぞれの分科会が単独で存在するのではなく、必要に応じて手を取り合って連携していくようなプラットフォームを目指しています。私達と一緒に創ってみませんか？



SiPSホームページ



SiPS代表・医学部 医学科 6年  
白鳥博之さん

# 島根県内の縁を繋ぎ 地域で創る多職種連携

## 人と人を繋ぐことを 多職種連携の第一歩に

多職種連携教育はIPE(※)と呼ばれ、医療従事者の養成に重要とされていますが、現状では学部間や県内の医療系学校間ですら連携することは難しく、学生がIPEを受ける機会はほとんどありません。そこで、まずはお互いを知り、交流を持つことが多職種連携を学ぶ第一歩であると考え、SiPS(※)を立ち上げました。今では島根県立大学や県外の学生、実務者にも繋がりが広がっています。2020年11月には、対面とオンラインのハイブリッド形式で「健康の社会的決定要因(SDH)」についてワークショップを行いました。学生と社会人が一緒になってグループワークを行い、それぞれの立場で、自分の学びと社会課題の結びつきを学ぶことができました。今後は他学部や地域との繋がりをさらに広げ、様々な人の学びや困りごとが関わりの合う場を作りたいと考えています。人、地域、そして人の気づきを繋げるSiPSの活動が、地域の課題解決へ向けた第一歩にもなると信じています。

※IPE…Inter-Professional Educationの略。※SiPS…Shimane interprofessional collaborations by studentsの略。





島根町の海水浴場でのゴミ拾いの様子。ここで拾ったものがアートの一部に。



アート展「Happiness on palette」の会場となった旧野波小学校。現在は廃校になっている。



Linkする城



# 海洋ゴミのアート展で 環境保全をうったえる

しまねLINK代表・総合理工学部物質化学科4年  
瀧宮暢斗さん



## 「しまねLINKメンバー」

地域おこし協力隊の井上さんと島根大学の学生有志4人で構成された団体。大学生生活の時間を少し使って、リアルな町おこしを体験したいという学生メンバーを募集。



## 町の魅力を伝える

## SDGsの普及も図る

松江市島根町は、豊かな海があるにもかかわらず、漂着ゴミが流れて来るため、漁業や観光利用の妨げになっています。漂着ゴミを活用したアートを通じて、環境保全の大切さを考えてもらいたいと、3月28日と4月3日の両日、旧野波小学校でイベントを開催しました。テーマは「廃校」×「SDGs」。まずは漂着ゴミの現状を知るために、週に1度島根町へ出向いてゴミ拾いをし、並行して地元の小学校で海のゴミに関する特別講義をしたり、展示内容の構想について考えたりしました。

イベント当日は、島根町の方をはじめとする多くの方に来場いただきました。「島根町の海の素晴らしさを改めて知ることができた」「知ることを通じて社会問題がジブンゴトになった」など様々な声をいただき、島根町やSDGsに関心を持ってもらえたのではないかと思います。個々の少々の意識で、世界全体が抱える課題を解決することにも繋がっていきます。今後も、しまねLINKでの活動を通じて、多くの人に広くSDGsや島根の魅力伝えていきたいです。



島根大学医学部附属病院のNICU・GCUの壁面を森のエリア、空のエリア、海のエリアに分けてデザイン。医学部で行われた記者発表では曾根さんがデザインについて説明を行った。



ポジティブな  
気持ちで！

気持ちはデザインに表れてしまうので、心が少しでも温かく穏やかになるデザインを考えるため、作業しているときや案を考える時は、なるべくポジティブな明るい気持ちで作業に取り組むよう心掛けました。この絵を見た方の不安感を取り除くことができたらいいな、という思いで仕上げました。



建築計画研究室の4名の学生が計画に関わった。それぞれがデザイン案を作成し、最終的に曾根さんのデザインに絞られていった。



「温かい」空間を設計  
安心してできる  
曾根彩花さん  
総合理工学部 建築デザイン学科 4年



新生児集中治療室 (NICU) の様子

実践的な学びを活かし  
病院をリノベーション

夏休みの集中講義「まちづくり演習」の一環で、NICU(新生児集中治療管理室)、GCU(回復治療室)の内部空間・設備の拡充整備を計画していた医学部附属病院でのリノベーションに参加しました。私は、NICU/GCUで治療中の新生児のご家族が来訪された際に、治療室の中を見ることができ、窓のデザインと、その周辺の壁面のデザインを担当しました。窓や壁面は、ひとつながりの絵にすることで繋がりを持たせたほか、廊下と診療室をつなぐ窓に、一つずつ違う種類の動物を描くことで、例えば「森のエリアのフラミンゴのところにいるのが〇〇さんの赤ちゃんですよ」と、ご家族が来訪された際の案内用アイコンになるよう工夫をしました。

今までの授業では、自分の設計した案が実現することはありませんでした。今回は壁紙のデザインが採用され、多くの過程に関わることができました。デザインの修正や追加、打ち合わせ、記者会見など、大学の講義だけでは得ることのできない貴重な体験をすることができました。



国境をこえてチャレンジする学生たち

# 留学生・留学体験紹介

Shimane ∞ World

現在島根大学では、世界28か国・地域、103の大学・機関と交流協定を結んでいます。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、多くの留学生が海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験について伺いました。



TO



留学先

ジャマイカ

はしもと ゆうた

橋本 友太 さん

(自然科学研究科 環境システム科学専攻 2年)

農業活性化のために尽力  
自ら学び・考え・行動すること

国際協力に関心があり、大学院を休学して青年海外協力隊に参加しました。ジャマイカのポートランド教区にある4Hクラブ（農業青年クラブ）で、教区内にある小学校のスクールガーデンの普及活動を行いました。教区内の学校のうち15校を日替わりでまわり、苗の作り方や植え方、肥料の作り方などを教えながら一緒に農作業をしました。ボランティアが帰国した後の定着が難しいという課題があったため、何が問題でどうすれば定着するのかを考えるために各学校へアンケートを取ったりもしました。今回の活動にあたって、環境教育に関する様々な論文を読みました。国によって考え方も異なり、学校ごとにケースバイケースになるため、広く学んで様々な視点を得ること、自ら考えて行動することの大切さに気付きました。



1. ポートランド教区での日常の小学校巡回活動の様子。2. 現地の農業機械、資材を扱う企業のEXPOで、日本の農業のブースを他の青年海外協力隊員と出展した際の様子。

FROM



出身地  
ベトナム



レー・ディン・トゥアン  
LE DINH TUAN さん  
(自然科学研究科  
環境システム科学専攻 2年)



1. 総合理工学部棟内にある無響室で音響の測定を行うトゥアンさん。2. 研究室の送別会での一コマ。



## 日本で経験を積み 将来は母国へ貢献したい

母国の橋や道路などインフラの多くは日本人によって作られたものです。大学では土木を専門に学び、かねてから日本留学に興味がありました。島根大学に留学し、建築を学ぶ友人から話を聞いたことがきっかけで、島根大学への留学を決めました。先生方はとても熱心に指導してくださり、勉強だけでなく生活面でもいろんなことを教えてもらえる親のような存在です。研究室では、鉄骨構造に関する研究を行っていて、今は修士論文執筆の真っ最中です。大学では、専門分野以外にも建築に関する様々な知識を身に付けることができました。ほか、実際の建築現場を見学する機会にも恵まれました。卒業後は日本で就職して経験を積み、将来的には母国に帰って、日本で得た知識や経験を活かしていきたいです。

TO



留学先  
アメリカ



あびる はな  
阿比留華 さん  
(法文学部 社会文化学科 4年)



1. ホストファミリーとユタ州の州立公園へ年末旅行に行った時の様子。2. 国も経歴も年齢も違うオペアの友人たちとアラスカにオーロラを見に行った際の一コマ。



## ホームステイを通じて リアルな生活を体感

3年の時に、オペアの制度を利用してアメリカへ留学しました。住み込みでホストファミリーの子どもたちのお世話をするため、留学前には1年間、児童クラブに通って子どもとの関わり方を学びました。留学から約半年後、徐々にコロナの影響が出始め、家でホストファミリーと過ごすことが増えたため、アメリカでのリアルな生活やリアルな英語を体感することができました。ホストファミリーだけでなく、他国からオペア留学しにきている人たちとも年齢や国籍を超えて交流できたことで、多様な文化にも触れられました。この留学をきっかけに、子どもたちに英語を教える先生になりたいという思いが強くなりました。留学で学んだことを忘れないように勉強を継続しつつ、希望の仕事に就けるように頑張りたいです。

※オペア：外国にホームステイして現地の子供の保育や家事をし、滞在先の家族から報酬をもらって生活する留学制度のこと。



# 心理療法を通して 心を一緒に見つめ 自分らしい在り方を探る

遊びや対話の中で  
心を自由に解放する

長谷川講師の専門は、家庭や学校、職場など暮らしの場で生じているさまざまな心の問題を解明し、実践的な解決策を探っていく臨床心理学。カウンセリングやプレイセラピー（遊戯療法）などの心理療法を通して、クライアント本人にも見えていなかった心の声と一緒に耳を傾け、自分らしい在り方の実現をサポートしていきます。「人の心には、意識で理解できる部分だけではない、深みや広がりがあります。十分に守られた空間の中で、カウンセラーと対話したり、絵を描いたり、遊んだり、自由に自分を表現するこ



人の心は、自分自身でさえ見ること  
も、触ることもできません。しかし、さまざま  
な理由で心がうまく働かなくなると、痛みを感じ、時には日常生活を送る  
ことも難しくなります。人間科学科の  
長谷川千紘講師は、悩んでいる人に寄り  
添い、その人らしい在り方を一緒に探して  
いく心理療法を実践しています。



### PROFILE

人間科学部 人間科学科  
長谷川 千紘 講師  
はせがわ ちひろ

大学生の時に体験した箱庭療法で、自分でも驚くような箱庭ができたことがありました。直感的にミニチュアを置いていくうちに、意図していないイメージが浮かんできたのです。自分でも気づかない心の動きを表現することの興味深さに惹かれた貴重な経験です。



1.箱庭制作の実習を行う長谷川講師。 2.臨床心理学に関する授業では、カウンセリングのロールプレイや心理アセスメントなどの演習を通じて、臨床的なアプローチを実践的に身に付けてもらいたいと長谷川講師。 3.人間科学部棟内にあるところそだちの相談センター。 4.日本箱庭療法学会の2019年度「河合隼雄賞」を受賞。



とで、心の奥にあるものが外側に  
出てくる通路が開かれていきま  
す」と長谷川講師。「こころとそだ  
ちの相談センター」では、スタッフの  
一員として実際に心理療法を担  
当し、小学校就学前の子どもた  
ちから子育て中の親や働きざか  
りの社会人まで、さまざま年齢  
や立場の人の相談に応じていま  
す。

言葉でうまく表現できない子  
どもにも有効なセラピーが、遊び  
の中で自分の心を自由に解放す  
るプレイセラピーです。「作られた  
世界の中で完結するゲームと違  
い、体を使って動いたり、一対二で遊  
んだりしていると、子どもたちは  
驚くほどの想像力と創造力を広  
げていきます。遊びは、人の心が  
元々持っているファンタジーやイマ  
ジネーションなどを刺激するツ  
ール。遊びを通して心が活性化して  
表現が広がっていくのです」と長  
谷川講師。一方、大人に対して多  
く行われるのが専門のカウンセ  
ラーとの対話の中で、自分を語る  
カウンセリングです。「日常の会話  
の多くがさらさら流れていくの  
に對し、カウンセラーは溜  
まっていく対話。カウンセラーと

定期的に対話することで、話した  
内容がクライエント自身にリフレ  
クト(反映)されます。そうして  
その人らしい在り方を一緒に探し  
ていくプロセスが、心理療法なの  
です。クライエントに接していると、  
どんな人にも魅力や成長する力  
があると改めて感じます」。

### 糖尿病治療に必要な 心理的ケアも模索

長谷川講師は、相談センター以外  
の場でも地域住民の心に耳を傾け  
ています。2020年からは、出雲  
市内の内科クリニックに通う患者の  
協力を得て、糖尿病治療に求めら  
れる心理的ケアのあり方を調査。  
心身のケアを並行して行うことで、  
健康に寄与するアプローチを検討  
しています。2018年には、小学  
生とその保護者を対象に、アートセ  
ラピーの一種であるコラーージュ療法の  
体験教室を開きました。「カウンセ  
リングや心理療法などと言えば一見  
敷居が高いかもしれませんが、でも、  
自分自身を見つめる場ととらえて、  
少しでもしんどさを感じれば気軽  
に門をたたいてほしいです」。



## 分子間相互作用を応用し エゴマ油の粉末化を実現 体内吸収性向上も判明

### 必須脂肪酸オメガ3を エゴマ油で効率摂取

人の体に不可欠な三大栄養素の一つである、脂質。その脂質を構成している重要な要素が脂肪酸ですが、そのうち、体内で合成できないため、食物から摂取する必要があります。α-リノレン酸が必須脂肪酸です。α-リノレン酸やEPA、DHAなどに代表されるオメガ3と、大豆油やコーン油などに多いオメガ6の2種類をバランス良く摂ることが大切とされています。EPAやDHAを摂れる魚の消費量が減少している現代、オメガ3を効率良く摂取できる手段として注目を集めているのが、α-リノレン酸を高濃度で含むエゴマ油です。島根県内では、川本



必須脂肪酸α-リノレン酸を高濃度で含み、健康増進の効能があるとして近年注目を集めているエゴマ油。しかし、酸化しやすく、加熱調理に向かないなど利用機会が限られているのが難点でした。生命科学科の吉清恵介准教授は、エゴマ油の粉末化を実現、体内吸収性が向上することも明らかにしました。



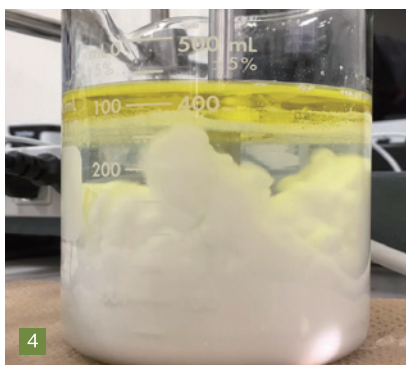
#### PROFILE

生物資源科学部 生命科学科  
**吉清 恵介** 准教授  
よしきよ けいすけ

2歳から小学4年生まで、育ち盛りの息子が3人いるのですが、おやつ代わりの魚肉ソーセージなどにエゴマ油粉末を混ぜられないかとたくらんでいます(笑)。彼らが好きな鶏のから揚げで摂れるのは、オメガ6。オメガ3とのバランス摂取を家でも口酸っぱく訴えています。



1. エゴマ油の粉末。白色で小麦粉のような手触り。 2. 奥出雲町と島根エゴマ振興会の主催で行われた「エゴマ講演会」で研究の説明を行う吉清准教授。 3. 奥出雲中村ファームのエゴマ畑。研究を開始してすぐの頃、学生とともに現地を訪れ、生産者から栽培のきっかけなどを聞いたのだそう。 4. 錯体形成の様子。



町や奥出雲町などの中山間地で多く作られています。

しかしエゴマ油は、酸化しやすく、加熱調理に向かないなど、利用機会が限られているのが難点でした。そこで吉清准教授は、長年、基礎研究を重ねてきた分子間相互作用という仕組みを応用することで、エゴマ油の粉末化に挑んだのです。「食品添加物として多く使われているシクロデキストリンという分子があります。この分子は環状をしており、内側に別の分子を取り込んで、光や熱などから保護したり、水に溶けやすくしたりする性質を持っています。シクロデキストリンが脂肪酸を取り込むと、相互作用して出来た化合物(錯体)が固体として回収されることや、脂肪酸の酸化安定性が向上されることは以前から知られていました」と吉清准教授。この仕組みをエゴマ油にも応用したのです。

## 大学発ベンチャーで 粉末エゴマ油を商品化

シクロデキストリンを溶かした水にエゴマ油を入れて攪拌すると、瞬時に

錯体が形成されます(図4)。効率良く錯体を形成できるタイプのシクロデキストリンから沈殿物を回収し、凍結乾燥して粉末状にしました。続いて行ったのが、体内吸収率の調査です。吉清准教授は、粉末状と液体状のエゴマ油をそれぞれラットに摂取させ、血液中の脂肪酸組成を観察。その結果、粉末の方が約1.5倍効率良く摂取できることが判明しました。「なぜ液体エゴマ油が体内吸収されにくいのか、シクロデキストリンを混ぜるとなぜ効率良く吸収されるのかというメカニズムが、研究により分かってきました」。

開発したエゴマ油粉末は、島根大学発のベンチャー企業「株式会社S-Nanotech(※)」で商品化。味や匂いに大きな特徴がないため、添加する食品の風味を損なうことが少なく、幅広く利用できる食品原料として期待されています。吉清准教授はこの技術を生かし、鳥取県倉吉市産のワサビを使った「ワサビ油」の粉末化にも挑んでいます。「オメガ3は、脳の正常な発達や機能維持に不可欠なものです。今後、食という切り口から、健康な脳の機能維持に貢献できるような研究ができれば、と考えています」。

※正式名称は「株式会社S-Nanotech Co-Creation」



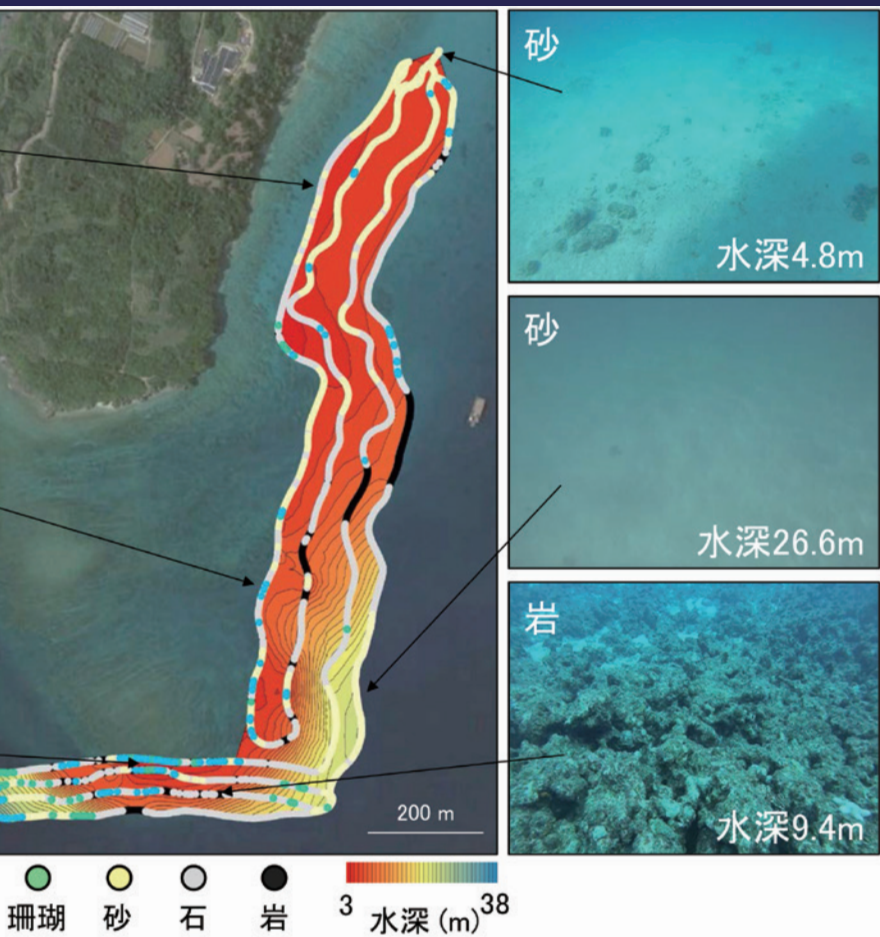
## ドローンボートを活用した 探査システムの構築で 海底地形の解明に挑む

魚群探知機を使って  
音響から水深を計測

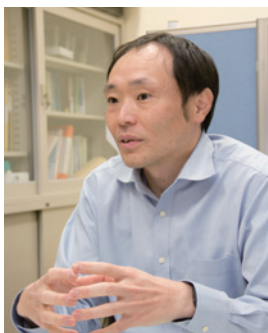


火星や月の表面の解析がほぼ100%進んでいるのに対し、海底の地形は科学技術が成熟した21世紀においても、全体の2割弱しか解明されていません。エスチュアリー研究センターの南憲吏助教は「海底探査技術プロジェクト (DeSET)」の一環として、海底地形探査システムの構築に挑んでいます。

## 海底地形図作成



地球上はもちろん、月や火星へも探査機を飛ばし、ほぼ100%の地形図を手に入れたと言われる現代においても、海には広大な未知の領域が残されています。「海は地球の表面積の約7割を占めていますが、解明されているのはわずか19%に過ぎません」と南助教。波や水圧、光が届かないほどの深さ、そして人材不足が、調査を拒んでいるのです。「陸上ならどこまでも歩いていけばいいですが、人は通常、水深30メートルでも10分程度しか連続して潜れません。また、近年は衛星画像からの計測も可能ですが、海の場合は深さ数十メートル



### PROFILE

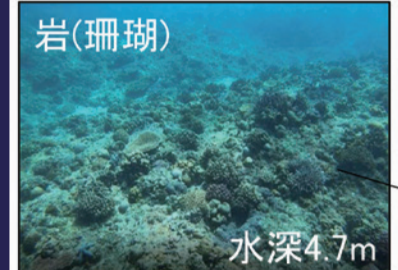
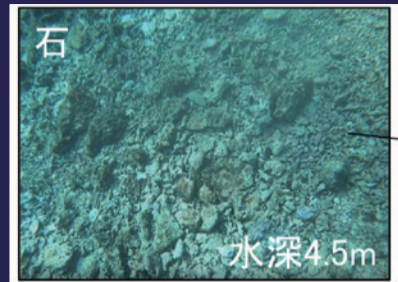
エスチュアリー研究センター

南 憲吏 助教  
みなみ けんじ

スキューバダイビングが趣味で、山口、北海道、京都と勤務地が替わるたびに各地の海に潜っています。地域によって特色があり、陸上とは全く違う海中の多様性に心を奪われます。島根に来て驚いたのは、自宅近くの身近な海でさえ、美しく透明感があることでした。



1. 2019年に沖縄で実施したテストから作成した海底地形地図。白い線が水深計測を行った航行ルート。 2. 中海でのドローンボートテスト航行の様子。水深は5~10mくらいのところ。 3. 4. 音響調査の様子。小型ボートから調査船まで、様々な規模での調査を行っている。



1

岩(珊瑚)

程度までしか測ることができないのです」。

そこで南助教が行っているのが、漁師らが使う魚群探知機を活用した音響計測です。水中に発射した超音波が、海底に反射して返ってくるまでの時間を測ることで、水深を計測します。しかし、船に乗って現地で移動しながら計測するには、時間やコスト、人員が膨大に必要なことが課題でした。小型船ならまだしも、外洋へは数千円の船で出向く必要があり、さらなるコストがかかります。

## 海底の現状を把握し 持続可能な海洋利用を

そんな中、公益財団法人日本財団や民間会社などの共同事業として「海底探査技術プロジェクト (DeSET)」が始動。専門性の

高い研究者や技術者、起業家らがチームを組んで、課題解決に取り組み始めたのです。南助教もメンバーの一員として参画。現在はドローンのコア技術を持つ会社や漁師向けのIoTに強い会社とタッグを組んで、ドローンを使った広域同時

海底地形探査システムの構築に挑んでいます。「従来は、データを取得するだけで手間やコストが非常にかかりました。しかし自動で航行、データ取得できるドローンを使えば、専門家や調査員が船に乗ることなく、データを集めることができます」。2019年には中海で、ドローンボートのテスト運航に成功。現在は外洋に出られるボートを開発中で、今年度中のテスト運航を予定しています。

ドローンボートは単体でも活用できますが、大型船の子機として並走させることで、広大な調査エリアを効率良く計測することも可能に。南助教は、「漁業者や釣り人、レジャーボートの利用者など一般の方々の協力を得られれば、データ取得量は一気に増加するでしょう。ドローンボートが大海原でも耐えられるよう技術をとがらせていきたいです」と意気込みます。

詳細な海底地形図を作ること、は、津波の発生や水産資源の移動、気候変動など、これまでにない知見を得ることが出来ます。「海の持続的活用のために、まず重要なことが「見える化」なのです。現状を把握することで、環境保全への意識も高まるはず」。



# 社会で 活躍する 卒業生

A graduate of  
Shimane University

No. 12

地質調査・  
建設コンサルティング

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は、出雲市にある株式会社ワールド測量設計に勤務する吉原さんに、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

Profile

## 吉原 潤平 さん

株式会社ワールド測量設計  
技術3部 調査課

鳥取県倉吉市出身。2014年3月に総合理工学部地球資源環境学科(現:地球科学科)卒業。インターシップで同社の業務内容に触れ、自分の興味と一致し入社を決意。現在は技術3部調査課に所属し、地質等の調査業務を担当。

吉原

インフラ整備における地質の調査や分析を通じて地域の価値創造に貢献

1972年に設立された「株式会社ワールド測量設計」は、島根県内を営業エリアとする建設コンサルタント会社です。道路の設計や橋梁等の構造設計、農村地域の圃場整備に関する業務、水道関連の業務、これらに係る地質調査業務など、インフラ整備における幅広い測量・調査・設計業務を行っています。同社の技術3部調査課に所属するのが吉原さんです。

吉原さんが主に担当しているのは、道路や橋梁を建設することを目的とした地質調査業務で、実際の施工に入る前の地質の現地調査を行います。基本的な方法は、まず地面を歩いて、地面や表に現れている地層の断面、植生、傾斜等を総合的に観察。次に直径10cmの円柱状に地面を掘削し、ボーリングコアとよばれるサンプルを採取して、地中の様子を調査します。目的にもよりますが、ダムや大型の構造物であれば100m近く掘ることもあるそうです。それ以外にも、電気を

私たちが在学中よりはるかに進歩し、世界的に交流・学問の発展が期待され、目を見張りました。

(島根県江津市・女性)

写真や図に関して、もう少しインパクトがあって見やすくなるようにしたら良い気がする。

(島根県出雲市・70代男性)



ボーリングコアを観察する吉原さん。採取したものをハンマーでたたいて状況を確認します。

流して反応を観察したり、地震波等を使った探査もあります。このような現場調査から社内での調査結果のデータ化、それを元にした様々な設計を行います。「地質調査の仕事は一般の方から見れば、分かりづらいことが多く、簡単に興味を持っていただくのは難しいと思います。だからこそ国や自治体を中心とした顧客に、分かりやすく、理解していただけるよう工夫して

います」と専門性の高い業務ならではの心配りを行っています。

## 大学での専門的な学びが業務での基盤となり成長も加速させてくれる

島根大学在学中は、地球資源環境学科自然災害工学コースに在籍し、自然災害、地すべりについて学び、卒業研究では、島根県内の地すべり防止区域(地すべりが起こりやすい区域)で、どのような対策がなされているかをデータベース化していた吉原さん。学生時代には、週1回の野外実習で、様々な地域の地質や地層を学びました。この大学での学びが、現在の業務に基礎的な部分で直結しているといえます。「地質調査に関する知識、特に地質の判別や特徴は大学で学んだことが役立っています。調査に用いる器具等も同様なので、入学時に実習用で購入したハンマーを今も使っています」。また吉原さんの所属する調査課には5名の島根大学の卒業生がおり、なかでも3名は同じ学科の卒業生です。「一人は先輩なのですが、島根県内の様々な地域の地質を見てきているので、

特徴や気を付ける点についてアドバイスをもたらしています。同じ学科でも専攻した内容はそれぞれ異なり、違った視点から物事をとらえられるので、新たな発見や気づきにつながります」。島根大学の卒業生が数多く在籍することで、業務に関する知識の共有がスムーズに図られているほか、学生当時の実習の話などで盛り上がり円滑なコミュニケーションが取れるそうです。

## より大きな視点から仕事に取り組むため日常の努力を継続する

東西に長い島根県は地質的に多様で非常に興味深く、もう少し勉強したいと思い県内での就職を考えていた吉原さん。大学での学び、自分の興味がある分野で仕事をしたいと考え、インターシップを利用していくつかの企業を訪問しました。「現在の職場を訪問した際、業務の内容、社風や社員さんの雰囲気が良いのが印象的でした。インターシップ後も短期アルバイト等で声をかけていただき、業務に携わるうちに自分の学んでいる内容が建設・設計コンサルタント業界で活



「地質を見ると細部に意識がいきがちですが、常に最終的なゴールを見据えることを心がけています」と広い視野で業務に取り組む吉原さん。

用できるということを知り、自分の働きたい将来像と重なりました」。様々な経験を積みながら日々の業務に取り組む吉原さん。今後はより大きな視点から業務に取り組むことを目標にしています。「直近の目標は技術士の資格をとることで、この資格によって管理技術者になることができるので、業務全体を管理する職に就けます。全体を見て自分の想いや考え、やり方を決定して業務を進めることができず。もちろん、試験に向けた勉強もしますが、自分の場合は日々の業務が資格試験と直結するような内容なので、仕事をきちんとすることがスキルの獲得につながると思っています」。自分の学びと興味を活かして活躍の幅を広げていく吉原さんに今後の期待がかかります。

### 読者の声

Voice

広報しまだい vol.48に寄せられた声をお届けします。

普通のニュースでは知れないことも知ることができ、島大にますます興味が湧きました。

(島根県松江市・10代女性)

コロナ禍の地域のために産官学が協力して元氣な社会を作ってほしい。

(島根県松江市・30代男性)



## しまだいい便り

大学の旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

TOPICS

1

YouTubeチャンネルでライブ配信  
令和3年度島根大学入学式を挙行

令和3年度島根大学入学式を4月2日(金)松江キャンパス本部棟5階大会議室で開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、各学部・研究科入学生から選出された代表者1名ずつの計10名が参加し、式典の様子を本学公式YouTubeチャンネルでライブ配信しました。

式では、服部学長から、「学部や研究科における専門領域の学びに加えて、本学が展開する学部横断型の多彩な教育プログラム等も積極的に活用し、自身の知的好奇心を育てながら深く幅広い学びをしていただきたい」と式辞があり、入学生代表からは、これからの大学生活への希望と誓いが述べられました。

今年度は、教室における対面型の授業を主体にしながら、オンライン授業も併用します。バーチャルとフィジカルな空間における双方の長所、機能が最大化される体制を構築し、より質の高い教育を提供していきます。



TOPICS

3

オープンソースを活用したビジネスプランコンテスト  
総合理工学部の学生が2件受賞

5月17日(月)から21日(金)の5日間、「しまだいい留学WEEK」を開催しました。期間中は、留学制度を説明するセミナーや、留学経験者による報告会、留学生を交えたオンライン交流会などが実施されました。1年生を中心に370人以上の参加があり、学生からは「留学のことをサポートしてくれるプログラムがあることが分かった」「コロナ後の留学計画に生かしたい」などの声が聞かれました。

2月20日(土)、オープンソースを活用した新しいビジネスプランを事業化・起業化へ繋げることを目的とした「松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト2021」の学生部門において、総合理工学部知能情報デザイン学科の学生が提案した2件が受賞しました。これらのビジネスプランは、学科の専門科目であるシステム創成プロジェクトにおいて、顧客インタビューによるニーズの分析やビジネスモデルの設計・検証を行い、応募プランにまとめたものです。

TOPICS

2

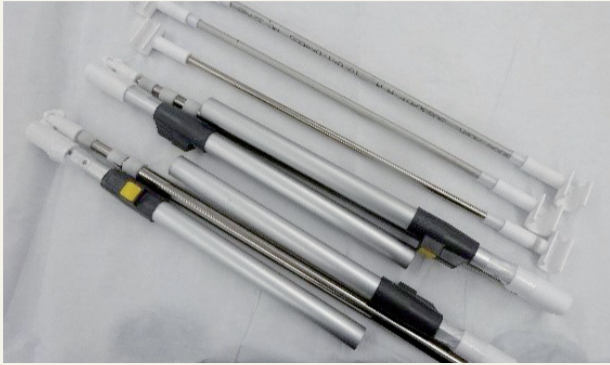
早い段階から海外へ目を向けるきっかけに  
しまだいい留学WEEKを開催

毎号、社会で活躍する卒業生を  
楽しみにしていますが、現役大学生の  
頑張っている姿もみてみたいですよ。

(島根県出雲市・50代女性)

医学部の地域への医療貢献が  
期待されますので、  
取り組みをPRしてください。

(島根県松江市・80代男性)



TOPICS

4

COVID-19等感染者搬送時の感染を防ぐ  
飛沫感染防止資機材を開発

本学と(株)METS(出雲市)との共同研究により「COVID-19等感染者搬送時の飛沫感染防止資機材」を開発しました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、医療機関においてはガイドラインに沿った飛沫感染防止策が行われていますが、救急車内という密閉空間で活動する救急隊員ないし、救急救命処置を行う救急救命士のための感染防止資機材は数少ないのが現状です。

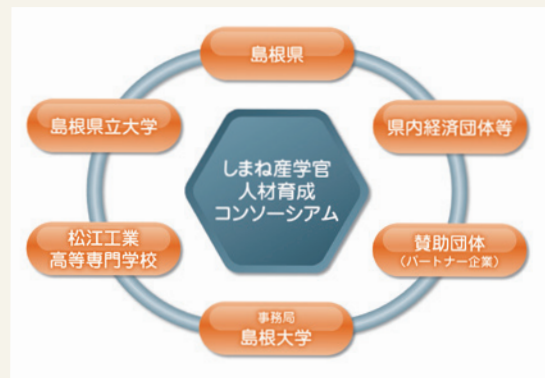
開発した資機材はどのような形状のストレッチャー等にも簡単に装着でき、活動内容に応じて形状可変し使用することが可能です。シンブルな構造・構成部材ですが、耐久性・機能性に優れ、現場活動を行う隊員1名でも容易に取付・設置することができず。また、本資機材は、震災時における避難所での疑似症隔離や応急的な診察・治療空間を確保することが可能です。屋外活動時には風雨からの傷病者保護やフィルムを変えることでプライバシー保護も可能です。介護施設においては有症状者の隔離目的としても使用できます。このように、救急車内での使用に限らず、医療機関、介護施設、老人ホーム等でも活用が見込まれています。



TOPICS

5

高等教育機関による地方創生を推進  
COC+事業の事後評価で「S評価」を獲得

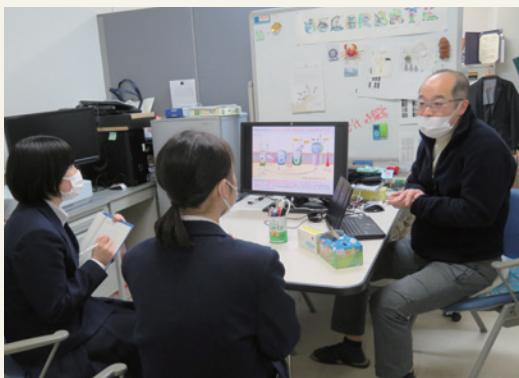


平成27年度(令和元年度)まで実施してきた文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の事後評価で「S評価」を獲得しました。今回の評価は5年間実施してきた事業の総括となるもので、12大学(28.6%)がS評価となっています。COC+事業は終了しましたが、引き続き、「しまね産学官人育成コンソーシアム」を中心に地域を支え、地域で活躍する若者の育成と県内定着を推進していきます。

TOPICS

6

実験・観察・研究の最前線に触れる  
大田高校の生徒が研究室を訪問



3月16日(火)、島根県立大田高校の理数科1年生24名が生物資源科学部の12研究室を訪問しました。当日は、松江キャンパス内の案内を受けて、各学科紹介動画を見ました。その後、各研究室に分かれて約2時間の研修を受けました。研修時間が終了した後も高校生が熱心に大学教授に質問している姿がとても印象的でした。今後、他の高校も含めて、高校生が学部研究室に訪問してくれることを期待します。

読者の声  
Voice

広報しまだい vol.48に寄せられた声をお届けします。

高齢者には難しい言葉は理解できないところがあり、なるべく分かりやすく書いて欲しい。

(島根県松江市・70代女性)

新ビジョンの策定、幅広い分野への取り組みが感じられ、地元の大学として素晴らしいと感じています。

(島根県浜田市・70代女性)





生物資源科学部の松本敏一教授は松江市の温泉水を利用した加温で、山陰地方で熱帯果樹を経済栽培する技術を確立するための研究を行っています。本庄総合農場でバナナ、マンゴー、パパイヤ、パイナップルなど7種類の果樹を研究栽培しているほか、熱帯果樹葉茶についても研究しています。豊かな温泉資源の活用につながる本研究に松江市からも期待が高まっています。

## TOPICS

8

## 生物資源科学部・松本敏一教授が確立を目指す 山陰地方での熱帯果樹栽培研究

写真は、宮崎准教授らによる別の高齢者調査の様相です。



人間科学部の宮崎准教授は岡山県立大学などと共同研究を行い、1日約30分間程度の軽い有酸素運動が高齢者の睡眠の質改善に有用であることを明らかにし、その論文が欧州の老年医学雑誌「Archives of Gerontology and Geriatrics」に掲載されました。現在宮崎准教授らは、「しげおこしプロジェクト」で県内自治体などと協力し、本研究の成果を県内に還元すべく取り組んでいます。

## TOPICS

7

## 人間科学部・宮崎准教授の睡眠に関する論文 1日約30分間の有酸素運動で睡眠改善

自宅でも手軽に取り組めるような構成になっています。この取り組みは、隠岐の島町役場と地域包括ケア教育研究センター・人間科学部の共同研究として行われました。



コロナ禍で外出などが制限される中、隠岐の島町民の健康維持・運動習慣の定着のために、人間科学部の学生2名(※)が体操動画を制作しました。「隠岐楽体操(まめな編)」は町民が「まめに(元気に)長生き」することを目指したストレッチと筋肉づくり運動を含めた体操です。

詳細はYouTube「島根大学チャンネル」  
(<https://www.youtube.com/watch?v=jb5tasw6gVo&t=15s>)からご覧ください。  
※モデル・勝部さん、動画編集・鍛治さん



## TOPICS

10

## コロナ禍における健康維持・運動習慣を 人間科学部の学生が体操動画を制作



大学院・教育学研究科の松本一郎教授が、BSS山陰放送の「etime」(4月30日放送)にテレビ出演しました。番組では「SDGsの目標 超はわかり講座」と題し、17個あるSDGsの目標(ゴール)を、人の生活に関するゴール、社会や経済に関するゴール、自然環境の保護と人の行動に関わるゴールの3つに分け、分かりやすく理解する方法を紹介。一人一人ができることから行動に移していく重要性を伝えました。

詳細はYouTube「BSS山陰放送ラッテチャンネル」  
(<https://youtu.be/7v2lFYOkBss>)からご覧ください。



## TOPICS

9

## 教育学研究科・松本一郎教授がテレビ出演 SDGsを分かりやすく解説

### 読者の声 Voice

広報しまだい  
vol.48に  
寄せられた声をお届けします。

いろいろな研究、感動しました。  
病気の苦しみ、悲しみが  
軽減されると思います。

(島根県江津市・70代女性)

5～6年前の広報誌と比べて、  
とても読みやすくなりました。  
引き続き魅力ある情報を期待しています。

(島根県隠岐郡・80代男性)

松江  
キャンパス

## ソフトテニス部



### 男子は中国大会優勝、女子は1部昇格 目標に向かってチーム一丸となる

ソフトテニス部の特徴は、「やる時はやる」というメリハリを大切にしているところです。部活が始まると全員が顔色を変えて全力で取り組みますが、終わるとみんな家族のように和気あいあいと雑談をしたりします。4月末に行われた春季リーグでは、男子・女子共に満足のいく成績を残すことができず悔しい思いをしました。この悔しさを次回の秋季リーグにぶつけるために、部員全員で毎日の部活に全力で取り組んでいます。

Shimadai's Circle

# しまだい

## CLUB

部活動

サークル

# &

## CIRCLE

# INFORMATION

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

出雲  
キャンパス

## 医学部ダンス部 flouriness



### ダンスを通して 学生や地域と交流を深める

くえびご祭での舞台発表のみならず、他大学との合同ワークショップや地域イベントへの参加など、学外活動も盛んです。コロナ禍の現在はダンス動画を撮影してSNSにあげています。ダンス初心者も多く、大学からでも気軽にダンスを始められる雰囲気魅力です。ジャズダンスからHIPHOPまで、様々なジャンルに挑戦しています。一回でも多く観客の皆さんを笑顔にできるステージを開催するのが目標です。

松江  
キャンパス

## 麻雀研究会



### 楽しく麻雀を！ 目指せ全国優勝！

「飲まない・吸わない・賭けない」の健康麻雀を motto に日々楽しく活動しています。今年度は、既に10名以上の新入部員を迎え、30名を超える規模のサークルとなりました。麻雀初心者から大会で入賞するほどの部員まで所属しています。麻雀を楽しむことを忘れず、公式大会での優勝はもちろん、麻雀ゲームアプリを活用した他大学との交流や麻雀を用いた地域貢献など新たな試みを積極的に行っていきたいと考えています。



# 島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 「島大会員のつどい」について

### Q「島大会員」とは？

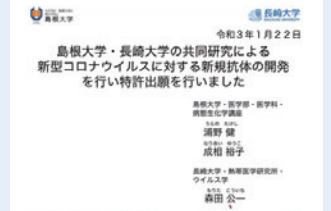
島根大学支援基金へ5,000円以上ご寄附いただいた方はどなたでもご加入（永年会員）いただけるもので、ご寄附額に応じた様々な会員特典をご用意しています。

### Q「島大会員のつどい」とは？

島根大学支援基金を通じて本学を応援して下さる島大会員の皆さまと絆を深めていくことを目的として、「島大会員のつどい」を開催しています。

令和2年度は3月21日（日）に「第4回島大会員のつどい」を初のオンラインにより開催し、「学生の体験発表会」、「学長との懇談会」、「医学部浦野教授による研究紹介」などを実施しました。

「学生の体験発表会」では、「中長期インターンシップ支援金」の支援を受けた学生にインターンシップの内容、支援金の使い道等について発表していただき、「学長との懇談会」では参加者からの質問に学長が答える形で双方向での交流を行いました。また、「医学部浦野教授によるコロナ研究紹介」では、メディアでも取り上げられた「新型コロナウイルス治療用抗体開発に向けて」と題して研究紹介を行い、参加者から多くの質問がありました。



オンライン開催の様子(上) 研究紹介(下)

支援基金についての詳細は支援基金HPをご覧ください。支援基金パンフレットをご請求ください。支援基金へご支援いただける場合は、支援基金HPから手続きいただくか、支援基金パンフレットによりお願いいたします。なお、パンフレットはお電話でもご請求も承っております。

お問い合わせ先

島根大学総務課支援基金担当

TEL 0852-32-6015

Mail sienkk@office.shimane-u.ac.jp

https://www.fund.shimane-u.ac.jp/



支援基金HP

## 島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学支援基金は、皆さまからのご寄附を学生支援等に活用させていただき仕組みです。

パンフレットは下記ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

ご協力ありがとうございました。 ※(単回)令和3年2月1日～令和3年4月30日に5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)

※(継続)令和2年4月1日～令和3年3月31日に5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)

### 法人等からのご寄附(単回)

株式会社オネスト 株式会社グローバル 鈴和地所株式会社

### 個人からのご寄附(単回)

伊藤嘉彦	井上憲一	稲生田妙子	秋重幸邦	上原正義	内田義孝	漆谷壽美子	永塚 学	円能寺真一	大内久生	大塚安貴子	奥迫 敏	小椋賢一
小笹英己	笠原善郎	梶田康洋	加藤和紘	加藤巡一	金子雅子	川田信行	河原 剛	北原邦紀	久納謙吾	熊澤 修	小谷美保	杉原 明
後藤元興	小林 茂	小林美夫子	近藤揚輔	坂垣内徹	坂根和志	塩原 潔	島田雅治	下田好之	下中隆嗣	下平 亨	杉原 明	長岡素巳
曾田弘喜	高取謙次	高橋洋之	高原文雄	田中直人	田中理絵	谷口 隆	谷口智紀	谷沢実佐子	永井あけみ	中尾耕造	東 正博	引田拓史
永田まち子	中本生二	中山澄子	中山実典	西村英泰	西山桂二	農守浩治	萩瀬浄信	蓮岡法障	原 恭子	藤尾和憲	藤尾めぐみ	藤川るみ
肥後功一	平井明彦	平川正人	平田 栄	平塚貴彦	福島正孝	福岡俊輔	藤江淑子	藤尾和憲	藤尾めぐみ	藤川るみ	藤川るみ	藤田保治
藤原伸夫	布野隆幸	古川俊彦	牧野晴香	松浦昌宏	馬庭洋美	丸田健一	三上佳邦	三橋宥利亚	宮崎和明	宮里公典	本泉宗晴	吉田 浩
森 誠司	森口基十雄	森込 茂	矢野素夫	山口伸一	山崎征爾	山田 猛	山本節子	行武禎一	横田正幸	吉田伊佐見	吉田 浩	
吉見 顕	若栗宣人	脇田 実										

### 個人からのご寄附(継続)

神谷年洋	吉川通彦	木村 猛	境 英俊	坂田正昭	佐藤鮎美	岩下義明	大野純一	岡田光弘	小高良啓	鬼形和道	勝部毅弘
名取瑞樹	縄手雅彦	濱田 太	東川 豊	廣瀬昌博	松浦晃幸	杉浦 健	千家充伸	竹谷 健	田部 恵	田辺義博	長井敦司
						松浦良紀	武藤哲也	棟石 均	吉岡宏敏		

お問い合わせ/ TEL 0852-32-6015 (総務課 支援基金担当)

<http://www.fund.shimane-u.ac.jp/>

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

## 編集後記

雨の合間の晴れた日には、夏の日差しが降り注ぐようになりました。さて今号冒頭では、4月に本格始動した「次世代たたら協創センター」新研究棟を取り上げました。最先端の研究機材を使った体験セミナーが開催され、参加した新入生は実際に金属を手にとって加工するなど、材料や金属の奥深さを実感していました。特集2では、脱炭素社会に向けた本学の動向を紹介しました。今後は様々な視点で研究を進める教員間の連携を強めるとともに、自治体や企業と協力して課題に取り組んで参ります。最後に、この春、本学の広報活動をサポートする学生ボランティアスタッフが新規加入し、総勢15名となりました。本誌の記事作成にも参加してもらおう予定ですので、次号以降楽しみに。

## 投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

## 投稿先

〒690-8504  
松江市西川津町1060  
島根大学 企画広報課  
TEL.0852-32-6603  
FAX.0852-32-6630

E-mail [gad-koho@office.shimane-u.ac.jp](mailto:gad-koho@office.shimane-u.ac.jp)  
HP <https://www.shimane-u.ac.jp>

こちらからもアクセスできます



## PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で5名様に、島大農場で収穫・加工した「ブルーベリージャム」「りんごジャム」各1瓶をセットにしてプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。

※応募締切/令和3年11月5日(金) 必着

人と木を結ぶ  
木造住宅の建築に欠かせない  
合板の製造で、  
国内シェア約30%を持っています。



**N** 松江・浜田・境港を中心に  
日本一のメーカーをめざしています。

NISSHIN  
日新ホールディングス 株式会社  
〒690-0887 島根県松江市殿町 383 山陰中央ビル 4F  
TEL 0852-33-7830  
NISSHIN GROUP WEBSITE  
https://www.nisshin.gr.jp

**GLOBAL**



高機能治具で  
モノづくり支援

しまだいOBも活躍中!

株式会社グローバル 出雲工場  
出雲市小境町1700番8 TEL.0853-67-9030  
<http://www.gl-b.co.jp/>

**NSK**  
日本システム開発

先進のIT技術で  
未来を拓く。

エンタープライズ系・組み込み系のソフトウェア受託開発を  
メインに、研究開発にも積極的に取り組んでいます。

日本システム開発株式会社 本社:名古屋 事業所:東京、松江  
〒690-0003 松江市朝日町 480 番地 8 松江 SKY ビル 3F  
TEL:0852-28-7175 FAX:0852-28-7233 HP: <https://www.nskint.co.jp/>

—あしたへ、未来へ—  
**地域創造企業**

おかげさまで36周年  
**SHOWA**

私達は、ものづくり支援で、未来の扉を開く  
あなたのベストパートナーと一緒に輝きます。

<http://www.showa00.co.jp/>

**SHIMURA** 建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量・地盤調査・地盤改良工事

あしたへ 未来へ  
**株式会社 昭和測量設計事務所**  
求人のお問い合わせは 営業エリア：島根、広島、山口、鳥取、岡山  
【益田本社】島根県益田市高津四丁目14番6号 【浜田事務所】島根県浜田市治和町H32-11  
TEL (0856) 23-6728 FAX 23-6573 【営業所】松江・川本

荒れた森林を元気にしよう!  
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。



みんなを  
を守る!

山陰合同銀行

信頼の実績・高品位ソフトウェア開発

**SOFT KAIHATSU**  
Everything begins with one will.

株式会社ソフト開発

東京 本社：東京都町田市鶴岡 TEL:042-795-7613  
広島オフィス：広島市安佐南区西原 TEL:082-850-0877

島大出身の社長とメンバーが数名・一緒に働く仲間 募集中です！  
<http://www.softkaihatsu.jp>

希望に満ちた  
未来ある若人を  
応援します

島大  
ブランド スッキリとした味わいで料理との相性も抜群!!  
島根大学の芋焼酎 **神在の里**

生物資源科学部神西砂丘農場で栽培された  
サツマイモから誕生した「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml)は化粧箱に入った2本セットもあります。

■神在の里の取り扱いのお問い合わせは

**島根大学生協同組合**  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel.0852-32-6242  
<https://www.shimadai.coop/>



WE LOVE SUN-IN!

タウン情報 求人情報 ポスティング WEB etc.

**楽しい街づくり**  
に貢献します

Webは  
コチラ!

**株式会社メリット** 松江事務所  
TEL.0852-23-2230

月曜～金曜 10:00～18:00  
本社:島根県松江市古志5-13-7 設立/1991年3月 ■採用支援サービス・タウン情報誌の発行 ■求人情報サイト運営 ■広告代理業 他

**広告募集**

広報しまだいでは、企業・団体様等からの  
広告を募集します。

島根大学企画広報課  
TEL : 0852-32-6603  
gad-koho@office.shimane-u.ac.jp



島根大学医学部附属病院広報誌  
**しろうさぎ**

患者さん向けの  
“役に立つ”情報満載!

WEB上でも読めます。詳しくはこちら▶

年4回発行





島根大学でひらく、  
君の未来

SHIMANE UNIVERSITY  
島根大学

WEB

OPEN

ウェブオープンキャンパス

CAMPUS

≡ 2021 ≡



### 松江キャンパス

MATSUE CAMPUS

法文学部 / 教育学部 / 人間科学部 /  
総合理工学部 / 生物資源科学部

島根大学教育・学生支援機構  
大学教育センター(アドミッション担当)

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL 0852-32-9758



### 出雲キャンパス

IZUMO CAMPUS

医学部医学科 / 医学部看護学科

島根大学医学部学務課入試担当

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

TEL 0853-20-2087



CHECK IT!

詳細についてはこちらをチェック!

島根大学HP > 入試情報 > 入試説明会等 > オープンキャンパス

[https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/explanation/open\\_campus/](https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/explanation/open_campus/)